様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２７１９

研究課題名（和文）日本人大学生による中国語誤用の調査研究

研究課題名（英文）A　Survey of Some Common Errors by the Japanese Chinese Learners

研究代表者
盧　濤（RO, TO）

広島大学・社会科学研究科・教授

研究者番号：８０２８９６５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：研究業績に示す通り、日本語の漢字・漢字語からの中国語学習に対する干渉をはじめ、母語日本語の干渉と中国語と日本語との統語的異同、及び中国語統語範疇と語順の特徴について、比較的体系的に分析することができた。特に機能語別の余剰現象と脱落現象及び動詞の混同使用をめぐって、日本人学生によるその誤用の類型の体系化に成功し、その起因について、異なる言語体系の統語構造や語彙構造によるという一般論を再検証しつつ修正を加えた。また、異なる言語体系を母語とする中国語学習者に見られる中国語統語誤用の異同即ちその個別性と共通性を分析作業を進めていくアイデアが得られ、今後その作業を進めていく予定である。

研究成果の概要（英文）： As shown in the research achievement, including interference with Chinese learning from Japanese kanji and kanji words, syntactic differences between native language Japanese interference and Chinese and Japanese, and Chinese syntactic category and word order characteristics , It was able to analyze relatively systematically. Especially about the surplus phenomenon by the functional word and the confusion of the dropout phenomenon and the verb, we succeeded in systematizing the typology of its misuse by Japanese students, and the general theory that the cause is due to the syntactic structure and the vocabulary structure of different language system We revised and modified it.

研究分野：言語学、中国語教育

キーワード：誤用　誤用分析　対照研究　脱落　余剰　語順　統語範疇　漢字

１．研究開始当初の背景

外国人学習者の増加に伴い、外国語としての中国語研究はここ 30 数年、中国国内において盛んになってきており、外国人学習者による誤用の分析も徐々に成果を見せているが、学習者の母国語別に行われた体系的な誤用分析はほとんど見当たらない。また、日本語話者の誤用例を手がかりに進めた誤用分析は散見されるが、日本語と比較対照する観点に欠けるだけでなく、中国語及び言語理論一般の研究成果を踏まえていないという欠点が存在する。と同時に、日本においては、日本人または中国語話者の中国語教育者、研究者による誤用分析が部分的に進められてきたが、いずれも中国語練習帳という性格が強く、誤用例の系統的な分類のみならず、誤用要因分析の体系化、理論化も行われていない。

従来、誤用分析(error analysis)は応用言語学の一分野として位置づけられ、言語学習理論や言語教育理論の問題として取り上げられる傾向が強かったようである。本研究は、上述の問題点を意識しつつ、言語学習理論や言語教育理論に関連づけながら、日本人大学生による中国語の誤りを体系的に集計し問題の所在を明らかにして、学習者の中国語運用能力の向上を図る。それと同時に、なぜそういう誤用を引き起こすのかという問題に答えるために、語彙化と文法化を中心に据えた、中国語の文法・語彙構造の分析を非文（ungrammatical sentence）から深化させつつ、学習者の母国日本語からの干渉に焦点を当てて、誤用分析に有用な日中言語対照研究のアプローチを模索することを目的としている。

２．研究の目的

本研究は、申請者がそれまで行ってきた、日本人大学生中国語学習者の誤用に関する調査研究をさらに進め、誤用例データベースの構築とその分析の体系化、理論化を目指すものである。 本研究の内容は、１）誤用類型の試み、２）誤用要因の分析に資する中国語の統語範疇と語彙構造の再認識、３）誤用例による日中言語対照研究の方法論の模索という３つである。 本研究の成果は、１）誤用例分類モデルの提示、２）適度な規模の誤用例データベースの構築及び中国語教育への応用、３）誤用分析のための中国語の文法・語彙構造の再分析、４）誤用分析に基づく日中対照研究に資するデータと方法論の提示の４つにあると予想される。

３．研究の方法

中国語教育の現場において、データの収集を続け、例えば、ここ２０年集め保存している日本人大学生による中国語の作文（作文授業の宿題、筆記試験の答案、卒業論文の中国語要旨など）を整理し、品詞ごとの誤用例を更に集めると同時に分類を行うと共に、誤用分析や対照研究の理論、中国語研究と中国語教育の成果を批判的に吸収しながら、具体的な分析作業を通して今までの研究成果に修正を加える。内外の学会や研究会において口頭発表、論文発表を行い、新たな研究課題を探りだす。

４．研究成果

当初の計画の通り、また下記の研究業績に示す通り、日本語の漢字・漢字語からの中国語学習に対する干渉をはじめ、母語日本語の干渉と中国語と日本語との統語的異同、及び中国語統語範疇と語順の特徴について、比較的体系的に分析することができた。特に機能語別の余剰現象と脱落現象及び動詞の混同使用をめぐって、日本人学生によるその誤用の類型の体系化に成功し、その起因について、異なる言語体系の統語構造や語彙構造によるという一般論を再検証しつつ修正を加えた。以上の内容を詳しく述べると、以下の通りとなる。

まず、日本語の漢字・漢字語からの中国語学習に対する干渉についてであるが、同じ漢字表記でも、日本語の漢字語と中国語のそれとは、たいてい違うものという基本的な認識のもとで、いわゆる「中日同形語」をめぐって、動詞と形容詞といった用言と、名詞、方位詞、代名詞、助数詞といった体現に分けて、それぞれの意味と文法の違いを分析し、より効果的な中国語教育と学習に資する提言を試みた。

それから、中国語統語範疇の再認識に関する研究成果として、主に助動詞と前置詞及び接続詞の再分類及びそのメンバーの再確認を行った。助動詞と非助動詞の性格付けを行った上で、個別に“ 愿

意”と“想”の助動詞的特徴と“必要”和“可能”の非助動詞的特徴を検証できた。前置詞の問題として、前置きの前置詞と後置きの前置詞の分類を行い、“用”と“拿”及び“替”と“代”の前置詞的か否かの再検証ができた。接続詞に関しては、移動可能な接続詞と移動不可能な接続詞、体言をつなげる接続詞と体言をつなげない接続詞、単音節接続詞と二音節接続詞という新たな接続詞の分類に成功した。

さらに、機能語別の余剰現象をめぐっては、構造助詞“的”、動態助詞“了”、“着”、“过”、文末助詞“了”、“的”といった助詞に加え、“关于”、“为了”などの前置詞や、“很”、“最”などの副詞、“能”などの助動詞及び“和”、“而”などの接続詞に見られる余剰現象を体系的に分析したが、助詞と前置詞の余剰が際立つのは日本語からの干渉によるものだという結論に至った。機能語の余剰現象の逆現象即ち脱落現象についても分析を試みたが、余剰現象との比較を含めた体系的な調査研究が待たれる。

最後に、動詞の混同使用については、名詞と動詞の混同、形容詞と動詞の混同、助動詞と動詞の混同、副詞と動詞の混同、前置詞と動詞の混同といった５つの混同類型及びその要因を分析した。その結果、1）語形の類似性；2）語義の類似性；3）日本語の対応語による間違えた対応使用；4）統語範疇の連続性といった４つにその起因が求められると結論が得られた。

今回の研究を通して、異なる言語背景、例えば、同じ漢字文化圏の韓国語と母語とする中国語学習者や、異なる言語体系の英語を母語とする中国語学習者に見られる中国語統語誤用の異同即ちその個別性と共通性を追求する必要性への認識が深まり、そのためには、その調査を展開する必要があると思われ、今後はそれらを新しい研究課題としてその分析作業を進めていく予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４　件）

4．盧　濤：日本漢語学習者漢字干擾類型初探　単著　2017年2月　第2回漢字文化圏華語教学専題研討会論文集（台湾清華大学）pp.204-214（査読付）

3．盧　濤：日本漢語学習者虚詞贅余偏誤類型初探　単著　2018 年 2 月　知性と創造（日中人文社会科学学会会誌）pp.134-150（査読付）

2．盧　濤：日本漢語学習者動詞混淆偏誤類型初探　単著　2018 年 6 月 Teaching and Learning Chinese in Global Contexts: from Language Policy to Classroom Practice Applied Chinese Language Studies IX. pp.65-72（査読付）

1．盧　濤：漢語句法範疇再議―従日本漢語学習者偏誤説開去　単著　2018年8月　漢日語言対比研究論叢第九輯（華東理工大学出版社）（印刷中）（査読付）

〔学会発表〕（計　８　件）

8．盧　濤：「漢語語序与範疇」漢語語法研究与習得―句法和語義国際研討会（パリ第七大学）、2015 年 6 月。

7．盧　濤：「中国語統語範疇の再検討―日本人中国語学習者の誤用例をてがかりに―」日本中国語学会中国支部 2016 年度第 1 回例会（広島大学）、2016 年 5 月

6．盧　濤：「中日語対照研究の可能性について」第七回中日韓日本言語文化研究国際フォーラム（大連大学）、2016 年 9 月。

5．盧　濤：「漢語区別使用問題初探」中日翻訳家協会（東京）、2016 年 12 月。

4．盧　濤：「日本漢語学習者語序偏誤類型

初探」Establishing Chinese Language Education as a Subject of Study in Europe（ハンガリーローランド大学)、2017 年 2 月。
3．盧　濤：「日本漢語学習者漢字干擾偏誤類型初探」第 2 回漢字文化圏華語教学専題研討会（台湾清華大学)、2017 年 2 月。
2．盧　濤：「日本漢語学習者虚詞贅余偏誤類型初探」日中人文社会科学学会第１５回研究発表大会（成城大学)、2017 年 6 月。
1．盧　濤：「日本漢語学習者動詞混淆偏誤類型初探」The 15th International Conference on Teaching and Learning Chinese in Higher Education (Southampton University, UK)、2017 年 6 月。

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者

盧　濤 (RO.TO)
広島大学・社会科学研究科・教授
研究者番号：80289652
(2)研究分担者

研究者番号：

(3)連携研究者

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)